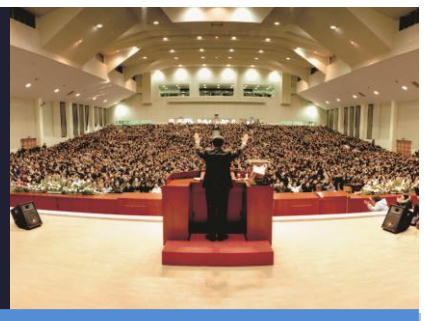
第 2018-43 号

恵みと真理のニュース



2018 年 10 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

苦難を通して神様の前にもっと身近に進むようになりました。豊かな生活ではなくても心を尽くして神様に礼拝をささげ、主の事ができるので幸せです。

私は今、毎朝神様が準備し導いてくださった出勤道を歩きながら感謝する心で幸せな日々を始めます。神様がお創りになさった万物がいろんな模様と色でそれぞれ多様な光を照らしていて私の心にも入って明るく光っています。このように恵みと感動を与えてくださる神様を賛美して神様に対する愛を告白します。

私は学生ごろミッションスクールを通いながらしばらく間、教会に行くようになり神様を知るようになりました。職場生活をする中で後輩をついてリバイバル会に参席して熱心に信仰生活をすると決断して、姉に導かれて恵みと真理教会に登録して礼拝中心の生活を始めました。
“こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。（創世記２：２４）”　“妻を得るものは恵みを得る。主に喜び迎えられる。”（箴言１８：２２）
結婚の時期を超えてから結婚と配偶者のため祈りを始めました。期間を決めて早天祈り会にも出て神様が助けて摂理してくださるのを願いながら祈りました。当時、イエス様を知らない母も私が朝早く起きないと起こして教会に行けるように助けてくださいました。はじめは才能や学力や性格などすべての面において素晴らしい配偶者に出会わせてくださいと祈りましたが、祈りの最後の日には“私とよく通じる配偶者で特に信仰生活を共にする配偶者に出会えるように祈りました。以前は何の祈りもなく結婚をしようとしたのか、配偶者のため祈りが大事であることを悟りました。神様が私の切ない祈りを聞いてくださり、私とよく通じる配偶者に出会わせるように摂理してくださいました。
見よ、子らは主からいただく嗣業。胎の実りは報い。（詩編127：3）　お前の主なる神はお前のただ中におられ／勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ／愛によってお前を新たにし／お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」（ゼファニア３：１７）
私の夫婦に大事な息子を授けてくださった神様を賛美します。子供は実りの報いだと話したのに本当に実りの子でした。今まで親を肉的にも精神的にも心配かけたことがない息子でした。私の母は私が息子をかわいがるのを見て　“かわいい？私もあなたをそのように可愛がって育ってたよ。”話をするときには大きい感動を受けなきました。そして、息子が正しく健康に育つようによく見守ってくださる神様に感謝賛美を捧げました。
息子が言葉を話すごろから幼児部聖殿で礼拝をささげるようにしたら、そうすると党会長の牧師の顔を見ることができないじゃん。”と私より牧師の説教を聞いて祝福を受けるのが好きでした。そうして、礼拝と教会奉仕を一番重要に思う生活をして教会をだれよりも愛する真実な青年になりました。
私がたまにクリスチャンらしくない言葉と行動をすると神様の御言葉を教えながら悟らせるようにしてくれます。そして、生徒に正しい歴史館と国家間をもって国と教会のため祈って献身する生徒になるように御言葉を教訓してくださる党会長の牧師にいつも感謝しています。私たちの家族が真理で生きておられる神様の御言葉の通りに御言葉が宣布される恵みと真理教会に属して御言葉で充満になる生活をするようになり、授けられた子供たちをよく養育するように助けてくださった神様に感謝を捧げます。
“卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。”（詩編１１９：７１）
ある日、ユラグロのような大風が私の家庭に吹きつきました。神様の御手を離したらすぐ深い水に陥って死んでしまうようで神様の手を強く掴みました。知りあいの人の話だけ聞いて職場生活をやめて旦那とともに事業を始めました。どころが初めから大きい損害が発生しました。旦那とともにした仕事が大変になり家計に大きく打撃を受けるようになって平安な時、いつも見えた神様が見えなくなりました。私は不安症とうつう病にかかりました。急に体重が増えて食事をしなくて立っている時は倒れそうで3か月ほど横になって過ごしました。
そのように過ごしているある日、私がなぜこうしているのかな？神様がおられるのになぜこうしているのか。と気を取り直して神様の前に進み出ました。祈りさえできなくて礼拝時間に神様を考え泣いてまた泣きました。その時ことに党会長牧師の御言葉で祈りで慰められ力と勇気をくださいました。
座っていると祈る時間があるなら礼拝をして神様を仰ぎました。そうしながら神様が私をどのように助けてくださるのか？この苦難をどのように克服してくださるでしょうか？とする期待と希望を持つようになりました。その時、神様が話してくださいました。
この苦難をどのように克服してくださるでしょうか？とする期待と希望を持つようになりました。その時、神様が話してくださいました。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。　（ローマ書8：28）
あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。（コリント信徒への手紙一10：13）
このような御言葉の恵みで憎しみと恨みで満ちていた私の心をきれいにして再び立ち上がることができました。苦難を通して神様の御前に身近に進むようになりました。私のため助けてくださった教区長と祈ってくださった方々のおかげさまで私が再び立ち上がることができて大きい力になりました。
事業場を整理しながら夫に何も考えなくただ休みましょうとしました。十日間になって以前の職場で一緒に働いた方が新しい職場に移ってそこで責任者として働くようになったと一緒に働こうと私を誘いました 。うれしくて感謝する心で答えて働いているのに今回は以前の同僚から紹介されて他の職場で給料をはるかにもっと与える条件で提案が入ってきました。その一方で前の職場でも新しい条件でまた提案が来ました。いろんな面で断るしがたい条件があって心が揺れまいたが、私ははっきり断りました。この新しい職場で働きながら私が導いて神様に礼拝を捧げるようになったからです。
以前に勤務していた職場で私が職員礼拝を導きましたが、職場をやめるときに“私じゃなくても誰か代わりにやるでしょう。”と思ったが、退職した後、礼拝が中断されたという話を聞いて心が重くなりクリスチャンの職員にも申し訳なかったです。それで、今回はそのような愚かな行動を繰り返さないように良い条件よりも神様に仕え神様に礼拝を捧げるのをもっと大事に思って今の職場で謙遜に礼拝の導きの者の使命を担えています。年を取ったので会社を辞める時、再び仕事ができないと思ってユニフォームも捨てましたが、私をいろんな所で誘ってくださり 、認定を受けるように神様が恵みを与えて人々の心を動かしてくださいました。経済的な苦難も克服するように助けてくださり、回復してくださいました。
あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。（コリント信徒への手紙二３：３）いう御言葉が思い出して涙が自然に出ます。ハレルヤ！
一人子であるイエス様をこの世に送ってくださり、十字架に死なれるほど私を愛した神様、大きくて驚くな恵みに感謝しながらもまだ、足りなくて弱いのでたまには倒れそうな時もあります。その時ことに神様が出した御手を掴んでイエスキリストの十字架を見上げます。そうしながら、再び世を勝つ力と勇気ができます。今、この証を書く瞬間も神様の恵みで感動され感謝の涙を流します。食べるもの着るものが豊かではなくても心を尽くして神様に礼拝して主の事ができて幸いです。天国を愛して主を委ねながらこの人生の旅人の道を歩むことができて誠に幸せです。主を賛美します。主を愛します。

［信仰コラム］　自由を享有しなさい

”キリストは，自由を 得させるために，私たちを解放してくださいました。ですから，あなたがたは，しっかり立って，またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。”
（ガラテヤ人への手紙5:1）

人の欲望の中で最も大きいのが生存に対する欲望です。しかし、自由に対する欲望は生存に対する欲望程に強烈です。人は肉親と精神、魂を持っているので肉親的な自由、精神的な自由、霊的な自由がいなければなりません。肉親的で精神的な不自由を感じられない人はいません。しかし、大体に人々は霊的な不自由については良く知りません。その魂が誤りと罪で死んだ状態にあるからです。
人は魂が自由を得ないと人生を空しく過し、結局は滅びます。福音は霊的な自由に対する消息です。イエス様は人生達に誠で永遠な自由を与えるためにこの世にお越しになりました。イエス様の誕生と死、そして復活によってイエス様を信じる全ての人は自由を得ます。
まず、その自由の内容と性格に対して調べてみましょう。
第一は、罪からの自由です。人類はアダムの子孫としてアダムに属し罪人になり死に至るようになりました。しかし、イエスキリストがお越しになって救いを完遂なさったことで彼を信じる人は罪から自由を得てキリストに属するようになり、キリストによって義人になりとこしえの命を得るようになりました。”アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである。”と記録されています。
第二は、律法の呪いからの自由です。ガラテヤ人への手紙 3 章 10 節に”いったい，律法の行いによる者は，皆のろいの下にある。「律法の書に書いてあるいっさいのことを守らず，これを 行わない者は，皆のろわれる 」と書いてあるからである。”と記録されています。’呪いの下にある’ということは神様の怒りと審判を受ける者という意味です。律法が求めるのは”誰でも律法の通りに全てのことを常に行うべきだ。”ということです。律法は罪人が無力を悟るようにして神様の恵みを渇望するようにしてくれます。そうしてイエスキリストを信じるようにしてキリストの中にある福の約束を享受するようにしてくれます。イエスキリストを信じる人はこれ以上律法の下のおらず、恵みの下にいます。
第三は、死の権勢からの自由です。ローマ書 8 章 1 節、2 節に”こういうわけで，今やキリスト· イエスにある者は罪に定められることがない。なぜなら，キリスト·イエスにあるいのちの御霊の法則は，罪と死との法則からあなたを解放したからである。”と宣言されました。イエスキリストを信じる者は生まれ変わって新たな命を得ます。これは天国から永遠に生きる命です。従って、滅びに至らせる死の権勢が及ぶことができません。
次は、聖徒達がイエスキリストによって得た自由を享有すうことについて調べてみましょう。
第一は、義人になったことを楽しむべきです。再び定罪意識を持ってはなりません。以前に犯した罪による罪責に縛られてはなりません。神様が与えてくださった義は判決を通じてくださった義であります。”イエスを信じる者は正しい”と最高裁判長でおられる神様が判決なさいました。
第二は、神様の子になったことを楽しむべきです。ガラテヤ人への手紙 4 章 4 節と 5 節の御言葉にイエス様がこの世にお越しになった理由を二つに分けて言及なさいました。一つは、律法の下にいる人々を律法から自由にすること、罪から自由にすることでありもう一つは、神様の子にさせることです。イエスキリストを信じて神様の子になった人の心には一人子の霊でおられる聖霊が臨んでくださり、神様を父と呼ぶようにしてくださいます。神様の子は神様が与える業を受けます。従って、堂々と生きて、豊かな意識を持って生きるべきです。
第三は、律法以上に行う楽しみを享受すべきです。救われた者は律法以上に行う高い水準の生活をしようとする聖なる欲望を持つべきです。食べるにも、飲むにも、何をするにも神様の光栄のためにします。留まるにも離れるにも主を喜ばせる者になろうと励みます。生きても死んでも主を尊貴にするために行動します。そして、キリストの審判台で主から”良い忠實な僕よ，よくやった。あなたはわずかなものに忠實であったから，多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ”という称賛を期待しながら楽しんで善のことに励み、主の事に励みながら生きるべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

百 折 不 屈

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は破損しやすい土器です。人間の肉体がそれと全く同じようだけでなく、人間の実像がそうです。聖書に記録されるのを**「われらのよわいは 七十年にすぎません． あるいは 健やかであっても 八十年でしょう． しかしその 一生はただ， ほねおりと 悩みであって， その過ぎゆくことは 速く，われらは 飛び 去るのです」（詩篇 90:10）**しました。罪による審判の恐怖と生活の虚無と死の絶望を持った土器に過ぎない人生に驚くべき偉大な神の恵みが許されました。宝を持つ土器になる恵みです。その宝は、イエス・キリストによるのでしょう。
イエス・キリストは、私たちの罪を贖いしょうと人の形で世の中に来られ、十字架につけられ死なれ、三日目に復活しました。イエス・キリストを信じて受け入れた人は、土の器の中に宝を持っている人になります。本文にクリスチャンの実状について話すのを**「しかしわたしたちは， この 寶を 土の 器の 中に 持っている．その 測り 知れない 力は 神のものであって，わたしたちから 出たものでないことが， あらわれるためである」**しました。イエス・キリストを受け入れた人は、神の深く大きな力を体験することができます．
宝を持つ土の器と呼ばれる人が神の偉大な力をどのような形で体験することができるか本文に4つで言われました。**「わたしたちは， 四方から 患難を 受けても 窮しない． 途方にくれても 行き 詰まらない． 迫害に 会っても 御者てられない． 倒されても 滅びない」**としました

第一に、 四方から 患難を 受けても 窮しないとしました。

誰でも生きていけばトラブルに直面することがあります。ジレンマに直面しているか、まるで包囲されたのと同じ状況に直面することがあります。そんなときに聖徒の皆さんは当面の問題と状況のみを見るではなく、神を待ち望むしてください。聖書には、 四方から 患難を 受けても 窮しないように助けてくださる神様の力を生き生きと見せる場面があります。
アラムの国の王がイスラエルに侵入するための戦略会議をして奇襲作戦を敢行したが、イスラエルの軍事たちがその作戦を看破して守りますのでいつも失敗しました。その理由は、預言者エリシャが、これをあらかじめ知ってイスラエルの王に言ってくれたからです。この事実を知ったアラムの王は、エリシャを逮捕するために、エリシャが生きているドタンに多くの軍事と騎兵を送った。エリシャの若い者が朝早く起きて外に出て行ったがドタンを取り囲んでいるアラム軍をみました。 若い者 はぶるぶる震えながらエリシャに行って嘆息し、状況報告をしました。ところが、預言者エリシャは平気者弱く言うのを「私たちと一緒にいる者がかれらと一緒にいる者よりも多い。」しました。若い者とエリシャは、それぞれ異なる実像を見ていたのです。預言者エリシャが若い者のために祈りました。「主よ、どうぞ、私の目を開いて見るようにしてください」神が祈りにすぐに答えました。若い者の霊の目が開かれてみると、神様が送られた火の馬と火の戦車が山に満ちていました。聖徒の皆さんは、四方に取り囲んでいる状況になると東西四方を見回す目を上げて上を見てください。神を待ち望んでください。神は神を依頼するあなたはどこにいっても取り囲んでいないということを体験するようにしてくださいます。

第二に、苦しいことを与えても落胆しないとしました。

誰もこの世の中を生きる間くやしいことにあうことがあります。理解できない苦難と悲しいことにあう場合があります。この時、あなたはロ―マ人への手しもべ 8 章 28 節の言葉を暗唱してください。**「 神は， 神を 愛する 者たち， すなわち， ご 計畫に 従って 召された 者たちと 共に しいて， 万事を 益となるようにして 下さることを， わたしたちは 知っている」**この節と双璧になるのが創世記 50 章 20 節にあります。ヨセフは兄たちにした言葉です
ヨセフは兄たちの妬みのゆえに人身売買を受け連れて行かれ、しもべいんありました。ヨセフは落胆せずに主人であるポティファルのために懸命に働いた。ヨセフは主人の信頼を得て家庭のすべての事を管理するようになりました。しかしポテパルの妻の謀陥を受け、刑務所に投獄されました。ヨセフは落胆せずに誠実にしました。これを見てヨセフに刑務所の諸事務を任せました。ある日ヨセフは一緒に刑務所にいた、王に酒を注ぐ臣下と餅を焼く臣下の夢を解釈しました。酒を注ぐ臣下は復帰することができだらそうなれば、自分の事情を王に請願してもらうようにヨセフがお願いしました。果たしてその臣下が復職したが、ヨセフのお願いを忘れてしまった。 2 年の歳月が過ぎた後、エジプトの王が奇妙な夢を見た知恵をすべて集めても夢を解釈しないでした。その時酒を注ぐ臣下がヨセフを覚えて王に紹介しました
ヨセフは、神様が与えられる力にパラホの夢を夢占いました。来るべき 7 年豊年と 7 年の飢饉を予告する夢という解釈を聞いて王はこれを解決するために、ヨセフを総理に立てました。ヨセフは、全国各地に倉庫を建て、7 年豊年時の余剰農産物を倉庫に備蓄しておきました。7 年飢饉が迫ると、エジプトだけでなく、近隣の国でも穀物を買いにエジプトに集まって来ました。ヨセフの兄たちも例外ではありませんでした。ヨセフは王の許可を受けて、父と兄の家族のすべてをエジプトに招待して肥沃な土地ゴーセンに定着するようになりました
歳月が流れてヨセフの父親ヤコブがこの世を去りました。葬儀が終わった後、ヨセフの兄たちは大きく心配しました。父が生存しているときは、ヨセフが兄たちに報復しないだったが、今は報復しないかと戦々恐々としています。それゆえヨセフが兄たちに言いました。「兄たちは私を害をしていたが、神はそれを善で行われ今日のように多くの民を生かしました。今兄は恐れないでください。私が兄と兄の子供を養育します。」ジョセフはくやしいし、理解することができない苦しいことを受ける時に**、「神はすべてのこと万事を益となるようにして下さる」**ということを固く信じていました
そのためジョセフの心に落胆が留まる場所がありませんでした。聖徒の皆さん、苦しい事を受けるとき、ヨセフのように考えていい信じなさい。**「 神は， 神を 愛する 者たち， すなわち， ご 計畫に 従って 召された 者たちと 共に しいて， 万事を 益となるようにして 下さることを， わたしたちは 知っている」」**（ローマ 8:28）という言葉を信じて暗唱し、落胆を捨ててください

第三に、迫害を受けても捨てていないとしました。

イエス様を救い主として信じて愛して仕える人でありながら、この世で迫害を全く受けない場合は、むしろ不思議なことです。使徒パウロは**「いったい， キリスト イエス にあって 信心深く 生きようとする 者は， みな， 迫害を 受ける」（テモテへの第二の手紙 3:12）**しました。職場で不利益を受け、家族、友人、隣人、同僚からいじめれることがあります。しかし人に排斥されるのは恐ろしいことではありません。最も恐ろしいことは、神から見捨てられることです.
イエスが言われた **「わたしのために 人々があなたがたをののしり， また 迫害し， あなたがたに 対し 偽って さまざまの 悪口を 言う 時には， あなたがたは， さいわいである．喜び， よろこべ， 天においてあなたがたの受ける 報いは 大きい． あなたがたより 前の 預言者たちも， 同じように 迫害されたのである」（マタイによる福音書 5：11,12）**しました。**ペテロの第一の手紙 4 章 14 節には「キリスト の 名のためにそしられるなら，あなたがたはさいわいである． その 時には，榮光の 靈， 神の 靈が， あなたがたに 宿るからである」**しました。したがって、迫害される者は、神の愛を受けることになり、神に見捨てられる者を救うように導くことになります。

第四に、倒れされても滅びないとしました。

世界はクリスチャンを倒れされるしようとしますが、決して滅びるできません。歴史を見てみると、これを否定しないでしょう。多くの国では、キリスト教回クリスチャンを倒れされるとします滅ぼすしようとしました。しかし、教会や信徒を倒れせるしようとしていた個人と国はかえって網したが、キリスト教会は滅びず炎のように起こって盛んで、なりました。クリスチャンは脅威と苦難を受けるほどの能力の深く大きなもの表示されるの体験になります。たとえ倒されるしようと死に至るも滅びません。天使たちに捧げて楽園に入るようになって殉教者として輝かしい賞を受けることになるでしょう
クリスチャンは土の器の中に宝であるイエスに仕えた人です。深く大きな力が神にあることを知って四方に取り囲んでいるとき、神を待ち望むし、苦しいことをやられたら働かせて善を成し遂げられる神様を期待し、迫害を受けると報いてくださる神を考えて、倒される時、神様がくださる勝利を確信している人です

私たちは、世界を生きていきながら、まるで深海をダイビングする人のように四方に圧力を受けています。四方に取り囲んでいる、苦しいことをされたり、迫害を受けたり、倒される圧力を受けるとき深海でダイバーがヘルメットに接続されたラインを介して、海の上にある船に設置された空気タンクから注入する潜水した深さの気圧と同じ圧力の気体を呼吸するので、安全で平安に活動するように聖徒の皆さんは、祈りと賛美と信仰のホースを通して神の偉大な力を供給受けるので、そのすべての状況を十分に克服されることをお願いします。